■　女川町立女川小･中学校視察アンケート調査の集計結果

Ｑ１　小中一貫校について（参考になった点、疑問に思った点、意見等）
○施設一体型小中一貫教育学校であることで、９年間を見通した小・中学校のカリキュラムを作成することにより、発達段階に応じた系統的・継続的できめ細やかな学習指導が受けられる。 ○小学校と中学校の教員相互の協力関係を築くことができ、学力や体力向上及び児童生徒の理解への充実が図られる。 ○小・中の連携により「中１ギャップ」の減少が図られる。
○小学生と中学生の間での思いやりを図れることが心温まります。 ○小学生の様子や性格が中学生になっても通して分かり、先生同士で情報共有ができること。 ○あこがれが強くなり、不安より楽しみ等プラス面が目で直接見えることで「中１ギャップ」を減らせる。なくせること。 ○小１（７才）から中３（１５才）の思春期を含む長い期間の気持ちのコントロールが難しそうに感じた。
○９年間を見通したカリキュラムでありながらも、小学校６年間、中学校３年間とすることで区切りを付け新しい生活を始められる。小学校から中学校への進級にしても、職員室（間）での情報の共有がしやすいというところは、先生方が全員で見てくれているという安心に繋がると感じた。
○施設一体型ということで、中学生と小学生が合同で活動する場面があるので、中学生は小学生のまなざしを意識した生活をすると思いますし、小学生は中学生の背中を見て学ぶと思いますので、それぞれがいい刺激となってとてもいいなと感じました。
○中学生が小学生の面倒を見るなどを通じて、小学生からあこがれられる存在になる意識をもてるようになる点では、人間形成の大切な時期において非常に成長促進に期待できると感じた。また、小学生側も中学生と定期的な関わりを持つことで未来をイメージして、どのような中学生になりたいのか描きやすい環境であり、良い好循環が理想的だった。
○一貫校にすることで、小・中の連携がとりやすい（教師の方々も）といった話が参考になった。 ○義務教育学校、小中一貫校、どちらが良いかについては、義務教育学校の状況も見てみたいと感じた。６年３年で区切る小中一貫校のほうが、イメージしやすい。義務教育学校については、視察をして、メリット・デメリットを把握したい。 ○山元町では、特に坂元地区の方々の意見をどのように受け止めていくかが今後の課題となるように思います。小学校を統合するなら、小中一貫校または義務教育学校が良いと個人的には思いますが、小・中学校を統合した際の学校の建設予定地については、どのあたりを検討しているのか。今の山下小学校、山元中学校を一体的に造成するのか、つばめの杜公園、山下第二小学校、つばめの杜保育所のエリアを造成するのか、または、坂元中学校跡地を造成するのか、他に候補地があるのかわかりませんが、その敷地規模が必要となると思います。そうすると、小学校統合で坂元地区に、中学校は現在の山元中学校というような意見もでてくる可能性もあるかと危惧しております。
○小中一貫校はメリットの方が多いと先生方の発言から実感。ただ一から校舎を建てて実施することは現実的ではないと思った。 ○中学生の学力面のことを教頭先生にお聞きしましたが、目に見えての向上はあまりないような回答でした。 ○とても丁寧で、資料もわかりやすかった。

○内容については、これから山元町の学校再編を考えていく上で、どれも参考になることばかりでした。
○女川町の目指す子供たちの姿「志をもって未来を切り拓いていく子供たち」、女川町のスローガン「女川の子供たちは女川の教師が育てる。女川のみんなで育てる」の具現化を図るためしっかりと体制をたてて導入していることが参考になりました。
○小中一貫校と義務教育学校のメリット・デメリット（相違点、特徴）について何か気付けるものがあればよかったが、よくわからなかった。 ○小・中で教育を一貫して行うことは、保護者に安心感・期待感を与えるのではと感じた。
○９年間を６年と３年と分けたことにより、歴史と共にこれまで長年培ってきた小学校と中学校の文化（行事等）を、統廃合後も継続し守り抜き継承している。 ○小・中学校が、同一校舎及び校庭であり（図書室等は共有スペース）、児童生徒昇降口も共有である。そのことにより、普段から小学生と中学生のかかわりが強く、小・中の隔たりが少なく感じられた。義務教育６年目と７年目の垣根が低い。 ○小学校６年間、中学校３年間の区切りを残し学ばせている「強み」を、小・中学校の特色として、もう少し強く意識し取り組めば、小中一貫校の良さがさらに出てくるのではないでしょうか。
○義務教育学校でなくても小・中一体化した指導は可能。小・中の連携体制がとられることが大切である。
○小中一貫校としての魅力と取組みが大変参考になった。 ○義務教育学校の特長・特色が今一つつかめなかった。今後の視察等でもっと情報を集める必要があると感じた。 ○資料「教育委員会の部屋」が参考になった。広く町民の皆様に小学校再編について知っていただくためにも、中学校再編の時と同様に 広報活動に力を入れたいと思った。

Ｑ２　女川小中学校の教育の特色について（参考になった点、疑問に思った点、意見等）
○「志を持って、未来を切り拓いていく子供たち」、震災前から続くスローガン「女川の子供たちは、女川の教師が育てる。女川みんなで育てる」の具現化を図る体制作りを行う。目指している小中一貫教育は、小学校６年・中学校３年という現在の制度を壊すことではなく、６年・３年という制度の中で、文部科学省から示されている「学習指導要領」などを十分に踏まえながら取り組んでいく。 ・中学校教員による小学校授業への乗り入れ指導 ・中学校音楽科による小学校行事での合唱指導や演奏協力 ・ICT 機器の活用（小１～中３まで継続して使える） ・小・中合同防災避難訓練（原子力避難訓練、引き渡し訓練） ・礼儀作法、挨拶指導「女川っ子仕草」 ・小・中合同職員会議、小・中教科部会
○「女川プラン」に沿っており、乗り入れ教育があることで、その授業をより詳しく学べ、興味が持てること。 ○「女川向学館」のサポートが強くて大きいこと。下校後のことはもちろん心配しますし、宿題も家事などで色々忙しいと見てあげる時間も限られているので、サポートがあることはとてもありがたいと思いました。
○やはり「中１ギャップ」の低下は大きなメリットだと感じた。その反面、変化のない狭いコミュニティの中で、問題が起きた場合の対応や別な場所の提供や準備について考えておかなければならないと思った。（学習支援だけでもすぐにできる状況作り）

○「女川の子は女川が育てる」という意識が女川地域全体に根付いていて学校だけでなく、町全体で子供を育てるというところがとても印象に残りました。
○再編前の小学校が引き継いだ伝統文化が活動に入っている所も参考になりました。

○伝統文化の継承が教育の中で共有されること。
○女川向学館との連携や放課後の居場所作りは参考になった。中でも「女川っ子仕草」の習慣化は、どのような時代においても必要な姿勢であり勉強よりも必要な学びであると感じた。

○震災直後に安全に、学べる学び舎をという思いが強いうちに建設されたことも、女川町民の意見がまとまった背景にあるのかなと感じました。山元町の場合は、もともと、山下、坂元の両地区のそれぞれの文化があり、地区の垣根を超えた連携という部分が、まだ、未熟なため、どのように取りまとめるか、課題だと思います。
○小中一貫校で一体的に開発することで、セキュリティの強化がしやすくなり、子供たちの安全をより強固にできるということが良いと思いました。

○地元の方との結びつきの強さは、素晴らしいと思った。山元中は地域格差が大きく、女川までの団結はない（特に保護者）と思いました。

○防災教育、協働教育、小学５・６年から職場体験などがしっかりカリキュラムが組まれていた。
○女川向学館との連携が大きいと思った。(山元の学びの森に近い?)

○一貫校とはいえ、教育目標や校内研究のテーマも同じにしているのに発見があった。義務教育学校との違いがますますわからなくなった。
○ふるさとの伝統・歴史を大切にしていると感じた。

○小・中学校教職員での情報共有が図られていること。
○中学校教員による小学校への乗り入れ指導が図られていること。(校舎一体型の良さ)
○学校教育を強力バックアップしてくださる地域の方々の存在があること。(女川向学館、おながわ放課後楽校　→　子供たちの放課後の居場所がある)
○港町・女川の地域性を大切にした教育を実施していること。

○とりわけ高い理想、珍しい（特色ある）活動が多いわけでないが、小中学校の特色（地域の協働学習等）に丁寧に取り組んでいると感じた。

○学校教育目標から研究まで小・中一体化しているため、教育ビジョンのぶれがない一貫した指導が可能になっている。
○一貫するなら「女川プラン」のような町としての「目標とする子供像」を明確にすることが必要。特に将来残る人材を意識するなら「志教育」の視点も大切にしたい。

○小中一貫教育「女川プラン」・「女川生活実学」が参考になったと同時に、これらが小・中連携の「鍵」になると改めて感じた。山元町の小・中学校が取り組む「みのりプラン」の取組みが再編後の学校の教育活動として十分に生かせると感じた。

Ｑ３　学校施設について（参考になった点、意見等）
○町全体の復興まちづくりの中で町の中心「町のへそ」へ学校を移転。 ○セキュリティがしっかりしている。(防犯面) ○プールが屋上にあり、深さの違う２種類のプールが作られている。 ○広いランチルームがある。(食事だけでなく交流の場にするため) ○校庭が人工芝。(運動会直前まで雨が降っていても実施可能) ○学校駐車場が屋内にある。 ○体育館・音楽室が小・中用と２つある。 ○中学校は美術室、小学校は図工室がある。

○被服室、調理室、技術室は共同使用。
○セキュリティがしっかりしていること。 ○校庭が人工芝のため、雨が降ってもすぐ乾き、校庭の状況によって運動会の延期を考えるなどの心配を減らせる。予定通り進められる。 ○職員室が広いが一つであることで、用事のある先生の在室が分かり、探すなどの無駄な時間を掛けずに先生方同士の情報交換や共有が図れること。
○プールを屋上に設けることで、砂嵐やごみを避けられ、きれいに保てるが、日光との距離が近く、猛暑の時はほぼ直射日光で熱中症指数がより高く辛くないのかと感じた。
○施設の安全、防犯対策がしっかりしていて、保護者として安心できる。一体型施設ならではの、共有スペースが多く設置されていることと、廊下が広くそこにも交流スペースがあることがのびのびと過ごしやすそうだと感じた。
○施設面はあげればきりがないくらい素晴らしいと思いました。セキュリティ面も外から不審者とかが校舎内に侵入しづらい造りをしていたり、防犯カメラが設置してあったり、職員室が玄関の所にあったりと防犯対策がしっかりとしてあって、保護者が安心して子供たちを学校に預けられるなと思いました。 ○小と中の職員室が同じというところも、先生方同士の情報共有や相談事がしやすい点も施設一体型ならではで、とてもいいと思いました。
○人工芝の校庭 ○体育館（中学校、小学校用、共通） ○図書館の配置、小学生用、中学生用に分けながらも年齢に関係なく利用できる。
○校舎の中を、３つのエリアに分けられて作られていたこと。小学校エリア、中学校エリア、共有エリア。授業の時間がそれぞれ違うのでどのようにしているのか疑問でしたが、エリアを分けることで、放送を分けるなどの操作ができるので合理的だと感じました。また、小・中学校では、体育館などの設備の違いから、大小の差はあれ、２つの体育館が必要なこともわかりました。
○防犯面が素晴らしいです。(山元町の小中学校はどこからでも侵入可能) ○人工芝の水はけの良さも素晴らしいです。とにかく全部うらやましい。 ○ただ、あまりにも校舎が立派なので、古い公立高校でなく、私立高校に入りたくなるのでは…と思いました。
○素晴らしい施設で理想的な作りになっていたと思う。予算の関係で難しいとは思うが、閉会の挨拶にもあったように「学校づくりは町づくりに直結するもの」という考え方で山元町の未来を考えていただきたい。
○水はけの良い人工芝や高いフェンス等、防犯面のセキュリティはしっかりしていてよかった。 ○種類の豊富な図書館が良い。 ○廊下の展示スペースには、統合によりなくなった各学校の校名板や校章など残してあり、良かった。
○小中一貫校あるいは義務教育学校ということに関わらず、一体型の施設の良さを感じた。児童生徒の交流、教職員の協働の点で、スムーズにタイムリーに進められると感じた。
○体育館が広く２つ、武道場もある。(設備がすべて贅沢に揃っている。お金があれば…) （小・中それぞれの活動場所の確保及び部活動を行う中学生の活動場所が確保されている） ○昇降口を入ってすぐに正面にある幅の広い階段や吹き抜け。(開放感がある) ○統廃合した小・中学校の歴史記録陳列スペースがあり、きれいに整理されていた。 ○廊下が広く取ってあった。簡単な子供たちの集会に活用できそうな、ちょっとしたスペースとともに使いでがありそう。

○小・中学校で職員室が１つであることは必須であると感じた。制度上、学校の形態がどうであれ、小中連携の基盤は教師同士の交流・協働であると思います。小学校・中学校のそれぞれの部分（教頭、教務、事務、養教）はきちんと区分けし、使い分けをしているところ、連携しているところのバランスはとてもよいと思う。
○一体型のメリット（情報共有など）を十分に感じられた。一貫の良さを最大化するためには隣接型よりも一体型が望ましい。
○災害時の避難所機能も併せ持つ施設、「放課後児童クラブ」が校舎内にある点、役場と隣接する立地が参考になった。 ○「地域連携・ＰＴＡ室」はぜひ取り入れたいと感じた。 ○建物の外観はシンプルだが、中の廊下・通路等はやや狭い部分などがあり、もう少し動きやすい構造が良いかと思った。 ○エレベーター施設も必要であると感じた。

Ｑ４　参考になったことや山元の教育に取り入れたいこと
○これまで拝見したことがなかった小中一貫校だったため、上記の全てが大変参考になりました。新しく設備が整った校舎は大変魅力的でした。特に、セキュリティがしっかりしている面では、保護者として安心できて登校させられると思った。
○山下小もあいさつ運動を行っているが、校舎内で会った生徒たちのはきはきした挨拶が印象的だった。通りすがりにいいながらすれ違うのではなく、一歩立ち止まり軽く頭を下げてすることで、礼儀の良さが伝わってきた。改めて、挨拶の大切さに気付かされた。
○学校作りと併せて考えていくところで子育て支援について、別紙「りらく」女川町編の中で、Ｐ７の支援制度を見て充実していると感じた。山元町も県の外れになり、高校通学補助があれば子育て世代は助かる。 ○コミュニティ・スクールとは別に、小・中学生のサポート団体がいて様々なサポートに入ってもらえるのはありがたい。
○女川小・中学校の子供たちが、みんな元気に挨拶をしてくれたことがとても印象に残り「女川小・中学校っていいな」というイメージをもちました。山元の子供たちもあいさつができる子がほとんどで素晴らしいと思っていますが、より自然に挨拶ができるような取組があるといいなあと思います。 ○視察の中で一番気になったのは、元々小中一貫校だった学校が義務教育学校に転換しているところである。そういう機運が高まったら検討して欲しいと言うところです。小中一貫校よりも義務教育学校の方がいいという判断に至った経緯やそうなったときに、どのような流れになるのか、そのあたりのことはまだまだ勉強不足なので、今後の視察などで理解を深めていきたい。
○小学校６年、中学校３年は節目として子供たちにも自らを振り返る良いタイミングとなりうるため、世間の認識が一般化されるまでは是非維持していただきたい。
○町民一体となって、子供たちを育てるという思いを山下・坂元で共有し、子供たちにとってどのような形が望ましいのかという点で今後話ができると良いと感じました。
○どうしてカタールが全面的に支援してくださったのかを詳しくお聞きしたかったです。(町の負担金が少なくて済んだのはなぜか)

○特に印象に残っているのは、「小学生は中学生があこがれの存在。中学生は小学生からあこがれられる存在になる」という意識を持つようになるといったことです。とても大切なことだと感じました。 ○職員室が一緒で、小・中学校の子供たちの情報共有がしやすく共通理解をもって教育活動に取り組むことができる。
○女川生活実学（防災学習、協働教育、職場体験）。山元のコミュニティ・スクールを活用して山元ならではのことができると思う。 ○階段に記されていた「女川っ子仕草」は取り入れたい。
○山元町で実施している「みのりプロジェクト」においても、今年度までに小中連携を推進してきました。次年度以降の小中連携推進の中で、義務教育９年間を通した系統的な教育「女川プラン」は大いに参考になると感じました。
○小と小、小と中、学校間の連携の目指す効果は、物理的に同じ場所で協働によりもたらされると改めて感じました。様々な配慮から、中学校とは、別の場所に設置してしまうと「一つの学校」にする効果が半減すると感じました。
○「女川向学館」や「おながわ放課後楽校」などとの連携による教育活動が参考になった。 山元町教育委員会、各小・中学校が取り組んでいる外部機関や地域と連携した教育活動を一層充実させ、再編後の小学校の教育活動に生かしたいと感じた。